

【佳作】

「北方領土へ一歩ずつ・・・」

網走市立呼人中学校

1年 堀内 あず

「これから一〇二分の映画を見ます。」

私は、正直そんな長い映画を見るのか・・・という気持ちでした。でも見た後私は、この映画を見て良かったと思いました。

今回の北方領土学習で、『ジョバンニの島』という映画を見ました。この映画は私たち子どもが理解しやすい内容でした。でもちゃんと当時起きていたことが鮮明に描かれていました。私はこの映画を見て、ショックを受けました。

一つ目は、銃剣やライフルを構えたソ連軍が民家を襲ったところです。分からないロシア語で銃を突きつけられるなんて死を覚悟しないとイケないくらいおそろしかったと思います。

二つ目は、船で本土へ送られる場面で、死んだ赤ちゃんを海に投げ捨てたところです。私があのお母親だと思うと、とても胸が痛くなります。本当に許せません。

でもそんな中でも良いなと思った場面があります。それは、ロシア人と日本人の子ども達と同じ校舎で授業を受けているところで、お互いの国の歌を歌っていたところです。ロシア人は日本を、日本人はロシアを完全に嫌うのではなく、互いの文化に触れていたのが良いと思いました。

あと、私がとても感動した場面があります。それは、純平と寛太と佐和子先生が父の辰夫がいる収容所に行ったところです。父の額に柵のとげが刺さっているのにも関わらず、息子二人の手を『きゅっ』と握りしめていたのがとっても切なかったです。私はあの柵を壊して四人を抱きしめさせてあげたかったです。

また、私達は、元島民の方に当時の話を聞かせていただきました。その方は当時七歳で、父と妊娠中の母、姉と共に島から本土へ送られたそうです。彼らの周りには常に銃を持ったソ連軍がいたそうです。

「いつ撃たれるか分からない。」

そんな気持ちで日本へ送られるまで過ごしていたとおっしゃっていました。

これらは全てノンフィクションです。あなたはどう思いますか？これからは私のような若い世代が中心となって北方領土と向き合っていかなければなりません。犠牲者の死を無駄にせず、元島民の思いを引き継いで、これからも北方領土返還に向けて、一歩ずつ進んでいかなければいけません。